

令和 8 年 度

一 般 入 学 試 験（ 中 期 ） 問 題

国 語

（ 国 際 看 護 学 部 ）

注 意 事 項

1. 問題冊子は、試験監督者の指示があるまで開いてはいけません。
2. 問題冊子と解答用紙(マークシート)は別になっています。
3. 解答用紙には解答欄以外に下記①～④の記入欄があるので、試験監督者の指示に従ってそれぞれ正しく記入し、マークしなさい。
 - ① 氏名欄 氏名およびフリガナを記入しなさい。
 - ② 受験番号欄 受験番号(数字および英字)を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。
 - ③ 試験種別欄 【一般入試③】にマークしなさい。
 - ④ 教科・科目欄 【国語】にマークしなさい。
4. 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。
例えば、

10

 と表示のある問いに対して ③ と解答する場合は、次の[例]のように解答番号 10 の解答欄の ③ にマークしなさい。

[例]

解答 番号	解 答 欄									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
10	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

5. 試験時間は、60 分です。

I

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から公表することができません。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から公表することができません。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から公表することができません。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から公表することができません。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から公表することができません。

問1 点線部 a～e の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

a

1 ロテイ

④ ③ ② ①

① 肌をロシユツする
② ロメン電車に乗る
③ ロバタで魚を焼く
④ ワイロを受け取る

b

2 リンカク

④ ③ ② ①

① リンリ的な問題
② リンジョウ感を味わう
③ チュウリン場に停める
④ 里山のチクリン

c

3 ヒツテキ

④ ③ ② ①

① スイテキを拭き取る
② テキカクな判断
③ 誤りをシテキする
④ テキゼン逃亡する

d

4 トウスイ

④ ③ ② ①

① 手術前にマスイをする
② 犯人の動機をスイソクする
③ スイミン時間を確保する
④ スイタイの一端をたどる

e

5 コドク

④ ③ ② ①

① コジンを偲ぶ
② コリツ無援の窮地に陥る
③ ザイコを確認する
④ チームの士気をコブする

問2 傍線部A「外国に住むということは、草木が移植される状態に似ているように思う」について、筆者が外国に住むことを草木の移植に

たとえた理由として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

6

- ① 新しい土地に移された草木が、環境に適応するために外側の形態を大きく変化させるように、人間も外国に住むと外面的な生活習慣や行動様式が急速に変わり、それがその人の文化的アイデンティティを根本から作り替えてしまうという点を強調している。
- ② 草木が移植される際、根の先端が新しい土壌に触れながら微細な感覚を通して環境を探り当てていくように、人間も異なる言語圏に入ると、日常の些細な体験が存在の深部にまで響き、感覚そのものが鋭敏化して自己の根源に触れるという点を示している。
- ③ 移植された草木が元の土地の栄養を忘れ、新しい土地の成分で生きていくように、人間も外国に住むと母語や文化的背景を徐々に喪失し、最終的には新しい言語圏の価値観に完全に同化してしまうという危険性を示唆している。
- ④ 草木が移植されるときに一時的に枯れかけるように、人間も外国に住むと精神的に不安定になり、言語的にも文化的にも自分を見失う危機に陥るが、それを乗り越えることで新しい自己を獲得できるという過程を示している。

問3 傍線部B「犬」は「犬」とちがうのだ」と述べる筆者の意図として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

7

- ① 異なる言語で表現される語は、指示対象が同一であっても、その語が属する文化的背景や歴史的文脈が異なるため、語の意味内容が完全に一致することはなく、言語は本質的に翻訳不可能であるという主張を示すため。
- ② 語の違いは単なる音声的差異にすぎず、視覚的に同じ対象を指す以上、言語圏が異なっても人間の認識は普遍的であるという、言語相対主義への反論を提示するため。
- ③ 日常的な買い物のような場面では、語の深い歴史性よりも実用性が優先されるため、語の違いは表面的な符牒にすぎず、文化的差異はほとんど問題にならないということを示すため。
- ④ 語の違いは、言語圏の差異によって世界の見え方そのものが変わること示す象徴であり、同じ対象を指していても、その語の背景にある歴史と生活体系の違いが、体験の質を根底から変えてしまうことを示すため。

問4 傍線部C「私」とは深い存在なのだ」と筆者が述べる理由として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

8

① 「私」は個人の経験だけでなく、過去の人々の記憶や文化的伝統を継承しており、その総体が個人の内部に沈殿しているため、個人の意識は歴史的連続性の中心に位置する深層的な存在であるから。

② 「私」は外界の刺激に対して敏感に反応する感覚の集合体にすぎず、個性や文化的背景は後天的に付与された表層的な属性にすぎないため、むしろ「私」は空虚で深みのない存在であるから。

③ 「私」は外国に住むことで初めて自己の文化的背景を完全に捨て去り、純粋な感覚だけに基づく新しい存在へと変容するため、その過程が「深さ」と呼ばれているから。

④ 「私」は言語圏の差異を超えて普遍的な思考の原型に到達する可能性を持つが、そのためには個人の歴史的背景を脱却しなければならず、その脱却の過程が「深さ」として理解されるから。

問5 傍線部D「観念はいつもずっと遅れてしかやってこない」と筆者が述べる意図として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

9

① 観念は感覚よりも本質的であり、感覚は観念の後に形成されるため、観念の遅れはむしろ自然な順序であることを示すため。

② 観念は感覚的体験を整理し抽象化する働きを持つが、感覚の直接性には追いつけず、思考の原型に触れるのは常に感覚の側であるということを示すため。

③ 観念は文化的背景に依存しているため、異文化体験の場では観念が先に働き、感覚がそれに従うという逆転現象が起こることを示すため。

④ 観念は言語によって形成されるため、外国語を習得するまでは観念が働かず、感覚だけが先行してしまうという語学習得上の困難を示すため。

問6 傍線部E「私はギリシヤのアテーナイにある、アクロポリスの神殿の前に立った日のことを思いだす」とあるが、アクロポリスでの体験が筆者にもたらした認識として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

10

① 古代ギリシヤの建築物は人間の意志の結晶であり、自然とは対立する人工物であるが、その人工性こそが人間の文化の偉大さを象徴しているという認識。

② アクロポリスの円柱は自然から切り出された石であり、最終的には自然に戻る運命にあるため、人間の意志による創造も自然の大きな流れの一部にすぎず、「私」もまた自然の微小な過程であるという認識。

③ アクロポリスの建築物は長い歴史を経てもなお完全な形を保っており、人間の文化的営為は自然の力を超えて永続する可能性を持つという認識。

④ 自然の中に人工物が存在することは不自然であり、人間の文化的営為は自然の秩序を乱すものであるため、文化と自然は本質的に調和しないという認識。

問7 傍線部F「いわば原自然とでもいうべきもの」とあるが、筆者が原自然と呼ぶものに対する説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

11

① 日本やヨーロッパのような地域ごとに異なる自然観を比較し、その差異を乗り越えた先に見える、文化的に構築された自然像の総体。

② 人間が自然を観察し、科学的に分析することで得られる普遍的な自然法則の体系。

③ 地域性や文化的差異を超えて存在する、人間の感覚が直接触れる根源的な自然であり、思考の原型が発動する場となるもの。

④ 人間の文化的営為によって加工される以前の、人間の思考を超越した手つかずで荘厳な自然環境そのもの。

問8 傍線部G「精神的課題」とあるが、筆者が戦後世代の精神的課題として捉えているものとして最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

12

- ① 戦後の価値体系の崩壊を受けて、既存の文学的形式を否定し、新しい表現形式を創造すること。
- ② 状況の変化や価値の崩壊を前に、自らの精神の出発点を自分自身の手で定め、存在や世界の原型を見きわめようとする思考の営為。
- ③ 戦前の文化的伝統を復興し、失われた価値観を再び確立するための精神的努力。
- ④ ヨーロッパ文化を模倣し、その思考様式を取り入れることで普遍的な精神性を獲得しようとする姿勢。

問9 本文の主題として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

13

- ① 異文化に身を置くことで個人の文化的基盤が揺らぎ、外界との摩擦を通して自己の再構築が促されるが、その過程は主として個人の成長物語として描かれており、言語や自然の問題は背景的要素として扱われている。
- ② 言語圏の差異が感覚や認識のあり方を根底から揺さぶり、個人がその深層にある深い私へと下降することで、最終的には地域性を超えた普遍的な思考の原型へ到達するという、人間存在の構造をめぐる探究が中心に据えられている。
- ③ 自然と文化の関係が根本的に対立的であるという前提に立ち、アクロポリスの体験を通して人間の文化的営為の限界を示しつつ、自然の優位性を強調することで世界観の再編を試みている。
- ④ 戦後日本の文学者たちが直面した精神的困難を、外国体験や文化的衝突を契機として克服していく過程を描き、その歴史的背景を通して文学的意識の変遷を論じている。

Ⅱ

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から公表することができません。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から公表することができません。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から公表することができません。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から公表することができません。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から公表することができません。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から公表することができません。

問1 点線部 a～e の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

a

ホウフ

14

④ ③ ② ①

① 新年のホウフを述べる
② ホウジュンな香り
③ ホウガン投げの選手
④ 努力がスイホウに帰す

b

ジュウソク

15

④ ③ ② ①

① 交通ジュウタイに巻き込まれる
② ジュウオウ無尽に走り回る
③ 煙がジュウマンする
④ ジュウナンに対応する

c

センク

16

④ ③ ② ①

① 最新技術をクシする
② 驚いてゼツクする
③ クジョウを申し立てる
④ クイが残る結果

d

イツカン

17

④ ③ ② ①

① 予定をカン違いする
② アツカンの演技
③ 最初がカンジンだ
④ トツカン工事

e

ケイイ

18

④ ③ ② ①

① 北極はイドが高い
② イケイの念を感じる
③ 活躍した選手をイロウする
④ 成功への道はヨウイではない

問2

空欄

i

v

に当てはまる接続語の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

19

①

i しかし

ii そのため

iii 確かに

iv おそらく

v まるで

②

i 要するに

ii ただし

iii おそらく

iv ゆえに

v 例えば

③

i そして

ii それから

iii しかし

iv ただし

v さらに

④

i まず

ii 逆に

iii そのため

iv ところが

v つまり

問3 傍線部A「フイデリティ・リサーチの社長は、わたしに会った時こう話してくれた」とあるが、フイデリティ・リサーチの社長の発言

の核心として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

20

- ① 消費者は選択肢が多いほど自由度が高まると信じているが、実際には選択肢が増えることで判断の負荷が増大し、購買行動が阻害されるため、企業は顧客の利益のために選択肢を意図的に絞るべきだという、実践的な姿勢を示している。
- ② ミニチュアルファンドの種類が多いことは企業の競争力を象徴するものであり、選択肢が多いほど顧客満足度が高まるという前提を維持しつつ、ジャム研究を宣伝的に利用し、選択肢の削減には本質的な価値を見いだしているわけではない。
- ③ ジャム研究は消費者行動の一面を示すにすぎず、金融商品のような複雑な選択には適用できないため、研究結果を企業戦略に取り入れることには慎重であるべきだという、研究と実務の乖離を強調する立場を述べている。
- ④ 選択肢が多いと購買率が下がるという研究結果は興味深いが、企業としては顧客の自由を最大限尊重するため、選択肢を減らすような施策は避けるべきだという、自由主義的な価値観を優先する姿勢を示している。

問4 傍線部B「三×三ルール」について、このルールの本質を説明するものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

21

- ① 顧客に多様な選択肢を提示することが重要であり、三段階にわたって選択肢を増やしていくことで、最終的に顧客がより自由に選べるようにする、選択肢拡大を目的とした方法である。
- ② 顧客に提示する選択肢を段階的に三つずつに限定することで、選択の負荷を段階的に軽減し、意思決定の質を高めるという、選択肢の構造化を重視した方法であり、選択の自由を保ちながらも過剰な情報量を抑制する工夫が施されている。
- ③ 顧客が自ら選択することを避ける傾向があるため、三段階の選択を通じて企業側が望む方向へ誘導することを目的とした、選択の自由を制限するマーケティング手法である。
- ④ 選択肢を三つに限定することで、顧客の判断を単純化し、企業側が最適と考える選択肢を自然に選ばせるように設計された、行動経済学的な誘導を中心とする手法である。

問5 傍線部C「多いことは少ないことだ」とあるが、このキャッチフレーズが広く浸透した理由として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

22

① 選択肢が多いほど幸福度が下がるという主張は、直感的には自由の価値観と矛盾するが、実際の生活経験と照らし合わせると納得できる部分があり、理性と感情の双方に訴える逆説的な魅力を備えていることで、一般文化にも広まったためである。

② 選択肢が多いほど合理的な判断が可能になるという従来の理論を強く裏づける内容であり、専門家の間で圧倒的な支持を得た結果、一般にも急速に広まったためである。

③ 選択肢の多さが自由の象徴であるという価値観を否定するものであり、社会的な反発を招いた結果、批判的な文脈で繰り返し引用されるようになったためである。

④ ジャム研究が科学的に完全に証明された事実として受け止められ、選択肢の多さが必ずしも良い結果を生まないという結論が社会の常識として定着したためである。

問6 傍線部D「最初の調査は、カリフォルニア州パロアルトの幼稚園の三歳児を対象に行った」とあるが、この実験が筆者に与えた重要な示唆として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

23

① 選択肢の多さがモチベーションに影響しないことが明らかになったため、選択に関する研究を中止し、別のテーマに移行する決断をした。

② おもちゃの種類を増やせば必ず子どもの興味を引けるという確信を深め、選択肢の多さが行動に与える影響を肯定的に捉えるようになった。

③ 幼児は選択する能力が未発達であるため、選択の研究は成人を対象に行うべきだという結論に至り、研究対象を変更する契機となった。

④ 選択肢が多いほどモチベーションが高まるという従来の理論が、特定の条件下では成立しない可能性を示し、選択肢の数そのものが行動に与える影響を再検討する必要性を筆者に強く意識させた。

問7 傍線部E「六」という数字に注目し、この数字が選択との間に結んだ、秘密協定を暴く必要があった」とあるが、筆者が「六」という

数字に注目した理由として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

24

① 従来の研究が六つの選択肢を基準としており、その数字が人間の処理能力とどのように関係しているのかを検証することで、選択の本質的な問題に迫れると考えたためである。

② 六という数字は文化的に特別な意味を持ち、選択行動に影響を与える象徴的な数であると考えられていたため、その心理的效果を調べる必要があったためである。

③ 六つの選択肢を提示した場合に限って実験結果が不安定であったため、「六」という数字そのものに実験上の影響があると判断し、原因を突き止めようとしたためである。

④ 六という数字は人間の処理能力の限界を超えており、短期記憶に保持するのが困難であることから、選択肢として提示するには不適切であるという仮説を立て、その妥当性を検証するためである。

問8 傍線部F「ありがたいことに、現在はプリンストン大学の心理学教授を務めるジョージ・ミラーが、すでに詳細な調査を進めてくれて

いた」とあるが、ミラーの調査が筆者の理解に与えた影響として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

25

① 人間の情報処理能力には明確な限界があり、選択肢が一定数を超えると認識・比較・記憶のいずれも困難になるため、選択肢の多さが混乱を招くという筆者の仮説を裏づける理論的基盤を提供した。

② 人間はどれほど多くの情報でも正確に処理できるという前提が誤りであることを示し、選択肢の数が多いほど判断が合理的になるという従来の理論を強く支持する結果となった。

③ 七という数字が文化的に特別な意味を持つことが示され、選択行動には文化的背景が大きく影響するという新たな視点を得る契機となった。

④ 情報処理能力の限界は個人差が大きいため、選択肢の数と行動の関係を一般化することは不可能であるという結論に至り、研究の方向性を修正する必要が生じた。

問9 本文全体の筆者の主張として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

26

① 選択肢が多いほど人間は自律的に行動できるようになり、モチベーションも高まるため、社会全体として選択肢を増やす方向で制度設計を行うべきだという、選択拡大を肯定する立場である。

② 選択肢の多さが行動に与える影響は文化的背景によって大きく異なるため、選択の研究は文化比較を中心に進めるべきであり、一般的な結論を導くことは困難であるという、文化相対主義的な立場である。

③ 選択肢が多いことは一見自由を増やすように思えるが、実際には人間の処理能力の限界を超え、満足度や行動意欲を低下させる場合があるため、選択肢の量を適切に調整することが重要であるという、自由と負荷のバランスを問う立場である。

④ 選択肢の多さが混乱を招くという考え方は誤解に基づくものであり、ジャム研究のような実験は例外的な状況にすぎないため、選択肢の多さを問題視する必要はないという、自由至上主義的な立場である。

〈国語〉 国際看護学部 中期 正答・配点

			解答番号	正答	配点
I (50 点)	問1	a	1	①	3 点
		b	2	③	3 点
		c	3	④	3 点
		d	4	①	3 点
		e	5	②	3 点
	問2		6	②	4 点
	問3		7	④	4 点
	問4		8	①	4 点
	問5		9	②	4 点
	問6		10	②	4 点
	問7		11	③	5 点
	問8		12	②	5 点
	問9		13	②	5 点
II (50 点)	問1	a	14	②	3 点
		b	15	③	3 点
		c	16	①	3 点
		d	17	④	3 点
		e	18	①	3 点
	問2		19	④	6 点
	問3		20	①	4 点
	問4		21	②	4 点
	問5		22	①	4 点
	問6		23	④	4 点
	問7		24	①	4 点
	問8		25	①	4 点
	問9		26	③	5 点